

日本史A，日本史B

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

日本史A

1 前 文

2年目の大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）となる日本史Aの受験者数は2,173人、平均点は40.97点であった。

全科目共通の問題作成方針に加えて、日本史の問題作成方針には、「事象に関する深い理解に基づいて、例えば、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題、仮説を立て、資料に基づいて根拠を示したり、検証したりする問題や、歴史の展開を考察したり、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する」と示されている。

なお、評価に当たっては、14ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内容・範囲

第1問 高校生の曾祖母の父親の履歴書とラグビー大会のパンフレットに関する会話文を題材にして、明治時代から昭和時代までの出題がなされた。経済史、外交史、社会史に関する小問を中心に構成され、史料や表を用いた問いもみられた。

問1 昭和初期の社会経済情勢について、空欄に適する文を選択する問題。該当の時期を昭和初期と推察したうえで、金融恐慌に関する歴史事象の正確な知識が求められた。

問2 二つの空欄に入る適語の正しい組合せを問う問題。□イでは昭和戦前期の商業施設について、□ウでは明治30年代の対外戦争について、それぞれ正確な知識が求められた。なお、履歴書には西暦が記されていた。年代を考察するうえで貴重な手掛かりとなる。

問3 満州とロシアでの測量に関する史料について適切な文を選択する問題。史料の内容を読み取る読解力とシベリア出兵の時期についての正確な知識が求められた。会話文と史料Yのなかに「危険な」という同じ言葉があるので、しっかりとした読み取りが必要となる。

問4 戦後の日米関係に関する文の年代整序問題。具体的な歴史用語は出さずに、それでも各文の内容を理解し、日米関係の変遷を把握しているかどうかを問う良問である。

問5 パンフレットにある優勝校に関する2文の正誤を判断する問題。当時の満州が置かれていた状況と京城の地理的な位置についての正確な知識が求められた。

問6 戦後の耐久消費財の価格と世帯ごとの普及率、大卒男性の初任給をまとめた表を読み取る問題。選択肢の出来事とその時期を正確に把握していなければ判断に迷うであろう。

問7 高校生の曾祖母の父親が生きた期間という設定で、社会の変化をまとめた表から誤文を選択する問題。明治時代と昭和時代を比較し、当時の社会状況を正確に考察できるかが問われる問題であった。

第2問 日本とハワイの関係についての高校生の会話をもとに、幕末から明治時代までの出題がなされた。外交史を中心に構成された小問は4題であったが、出題数のわりに史料がやや多く、全体として会話文とともに読み込むための時間が必要な問題であった。

問1 幕末における日本と海外諸国との交流に関する文が示す場所と人名の組合せを選択す

る問題。関連する語句をつなげて正答を導き出す確かな知識が求められた。

問2 日本とハワイ王国との修好通商条約に関して、正文の組合せを判断する問題。史料を読み解く力と日清修好条規に関する正確な知識が求められた。

問3 1885年から10年間の出来事に関する文の年代整序問題。天津条約や防穀令などの歴史用語がない文を読み、歴史事象の因果関係を正確に理解しているかを問う良問であった。

問4 日本人のハワイ渡航に関する二つの史料を読み取り、2文の正誤を判断する問題。史料を丁寧に読み解く力と、当時の日本国内の経済状況を分析する力が求められた。

第3問 明治後期から昭和初期にかけての社会と生活をテーマにした内容で、会話文AとBを軸にして出題がなされた。政治史、経済史、文化史に関する小問を中心に構成され、表やグラフを用いた問いもみられた。

問1 労働運動・社会主義運動に関する文の年代整序問題。選択肢の文章が短く、相互の関連性が乏しいため、それぞれの歴史事象の年代を覚えていないと解けない問題であろう。

問2 横山源之助の「貧街十五年間の移動」について書かれた二次資料を読解し、その2文の正誤を判断する問題。資料を丁寧に読み込めば、正答を導き出せる問題であろう。

問3 工場労働者と「細民」の家計をまとめた表に関する正しい文を選択する問題。大戦景気や米騒動などの社会的背景と資料の数値との関連性を分析する力が求められた。

問4 1920年代後半の内閣とその政策の組合せをそれぞれ選択する問題。時の内閣の政策についてその特徴を理解しているかどうか、正確な知識が求められた。

問5 1920年代から30年代の生活・文化に関する2文の正誤を判断する問題。この時期の住居環境や大衆雑誌に関する正確な知識が求められた。

問6 大正中期から昭和戦前期までの労働争議・小作争議に関する資料からグラフの各項目の正しい組合せを選択する問題。メモの情報とグラフの数値を関連づけて、的確に読み解く力が求められた。

問7 明治後期から昭和初期までの都市と農村の社会現象や人々の暮らしぶりに関する正しい内容を選択する問題。会話文や資料を丁寧に読み込めば、正答を導き出せる問題であろう。

第4問 今年で開通150年を迎える鉄道に焦点をあて、明治初期から戦後に至る鉄道の歴史とその役割をテーマにした出題がなされた。経済史、外交史、社会史に関する小問を中心に構成され、史料や表、写真を用いた問いもみられた。

問1 文中の空欄に入る語句の組合せを選択する問題。開港以来の主要な輸出品に関する二択と産業革命のエネルギー源に関する二択で、正確に判別する力が求められた。

問2 改暦を定めた詔書と時刻表の一部を史料として掲げて、その史料から読み取れる正文の組合せを判断する問題。史料を丁寧に読み込めば、正答を導き出せる問題であろう。

問3 明治中期から昭和初期までの鉄道の旅客輸送と営業距離の推移を記した表に関して誤文を判断する質の高い問題。表を読み解く力と鉄道政策に関する知識が求められた。

問4 鉄道に関わる出来事の文の年代整序問題。選択肢Ⅱが最初になることは考えることができるが、選択肢Ⅲの西原借款に関してどの程度理解しているかが問われる問題であった。

問5 戦後に撮影された2枚の写真について、正しい解説文の組合せを選択する問題。写真が示す出来事を分析し、それと関連した戦後の社会情勢を考察する力が求められた。

問6 高度経済成長期以降の陸上輸送に関する表をもとに正文を選択する問題。表を読み解く力と高度経済成長期の主な出来事に関する知識が求められた。

問7 戦後の民営化に関する2文の正誤の組合せを判断する問題。戦後政治における民営化について、国民生活の変化に関する理解とあわせて正確な知識が求められた。選択肢のなかに、

2000年代の首相の名が記された。

第5問 昭和期の政党政治と社会をテーマにした高校生の会話文AとBを軸に出題がなされた。政治史, 思想史に関する小問を中心に構成され, 史料や表を用いた問いもみられた。

問1 近代日本の選挙制度に関する2文と人名の組合せを選択する問題。選挙制度と首相との結びつきについて, 正確な知識が求められた。

問2 総選挙の結果をまとめた表から, 無産政党の動向に関する正文の組合せを判断する問題。三・一五事件に関する正確な知識と表を読み解く力が求められた。

問3 五・一五事件に関する史料を読み取り, 正文の組合せを判断する問題。減刑運動に関する史料を読み解く力と五・一五事件に関する基本的な知識が問われた。

問4 昭和期の学問や思想の弾圧に関する内容の正文を選択する問題。それぞれの人物の主張や学説について, 正確な知識が求められた。

問5 3次にわたる近衛文麿内閣の動向に関する年代整序問題。国民の置かれた状況を踏まえながら, 戦時体制に至る過程と内閣の政策を関連づけて的確に理解しているかが問われた。

問6 1940年から敗戦までの状況を調査する際に利用する史料について, 誤文を判断する問題。学徒出陣や自治体警察など歴史用語の知識をもとに, 戦時下に含まれない史料を選別する力が求められた。

問7 戦後初の総選挙における政党政治に関して, 戦前からの変化という観点で正文を選択する問題。革新政党や政党政治家の動向について, 正確な知識が求められた。

3 分量・程度

問題数は大問が5題, 小問が32題であり, 昨年との共通テストと同じであった。日本史Bとの共通問題は第2問と第4問で, この配置も変更はなかった。しかし, 昨年と比べて日本史Aの平均点が8点ほど下がったことは, 問題の中身が少し難化した可能性がある。問題の質にもよるが, 選択肢を含めた文章や史料の文字数, 統計の数値など, 60分の試験時間を考えるとやや多かったのではないと思われる。問題冊子も昨年より1ページ増えている。

問題の程度としては, 新学習指導要領の趣旨を踏まえ, 思考力, 判断力, 表現力等や資料読み取りの技能等を問うものが多かった。とくに歴史事象の知識と史料の読解力の両立を求める小問⁹や, 史資料と知識を関連づけて考察して判断する力を求める問題も多くみられ, ³や²¹など少し難解な問いも含まれていた。また, 単に歴史用語の細かい知識を問うのではなく, リード文や選択肢の内容から歴史事象を推察し, その正確な流れや変化を問う⁴・¹⁰・³²のような問題もみられた。それ以外にも様々な資料を用意したうえで思考力, 判断力, 表現力等や知識の理解の質を問う問題が随所にみられ, 全体的にバランスよく出題されていたように思われる。文献史料については, 授業で扱わない初見のものであっても, さほど難解な内容ではなかった。

4 表現・形式

(1) 形式

文章の正誤を選択する形式(6問)や正しい語句・文章の組合せを選択する形式(8問)など正誤判定問題が24問と多く, 昨年と同じような傾向であった。年代整序問題は5問で, 昨年より少し増えた。歴史用語の空欄補充は, 語句と文章を合わせて3題であった。また, 大問のうち4題が会話文を用いた出題であり, こうした生徒目線での出題形式は昨年同様に大きな特徴である。調べ学習などの場面設定で統計資料を交えた設問もみられたが, 日本史Bの問題で扱われた系図や地図からの出題はなかった。

各大問の主な出題形式は、以下の通りである。

- 第1問 履歴書とパンフレットといった生活色の濃い資料の他に複数の史料と表が提示された。昨年と同じく史料には適量の注釈や年号が施され、史料読解の配慮がなされていた。
- 第2問 小問4題のなかに3種類の史料が提示された。9のような史料の読み取りと歴史事象の知識を問う組合せは、他の大問にもよくみられた出題形式である。
- 第3問 表とグラフのほかに二次資料が提示された。こうした歴史事象の内容を解説する論文を問題に引用したことで、論理的かつ多角的な考察の幅を広げる出題形式となった。
- 第4問 リード文に示された特定の時代（時期）から知識や読解力などを問う形式であった。列車の時刻表や戦後の鉄道に関係する写真など、庶民目線での題材を取り入れた。
- 第5問 他の大問と比べて出題形式の大きな違いはなく、会話文をもとに出題が展開された。ある総選挙の結果を細かく表にするなど政治史を全面に打ち出したものとなった。

(2) 表現

受験者が難解に感じたと思われる表現はなかった。政治史、経済史、外交史、社会史など多岐にわたる視点で史資料が提示され、歴史を単体ではなく複合的に捉えさせようとする出題者の意図が感じられた。そうしたなかで、小問17はグラフの項目がやや多いためか、争議件数と組合数が両サイドに示され、受験者にとっては読み取りづらい凡例の仕方であったかもしれない。

5 ま と め（総括的な評価）

今年で2回目となった共通テストでは、出題科目の問題作成方針で示された「知識の理解の質を問う問題や思考力、判断力、表現力等を発揮して解くことが求められる問題」が非常に多くみられた。時代の範囲は、幕末期から昭和、そして平成と幅広く設定され、分野の領域は政治史・経済史・外交史・文化史など多方面にわたり、領域を融合させる問題もみられた。多くの設問が現行の学習指導要領の目標を踏まえて作成され、総じて教科書の内容に準拠した問題が出題された。

実際に教鞭をとっている者として、学習の過程を想定した場面設定は、これからの進路実現を支えるうえでも参考となる。例えば第2問のように、生徒がある歴史事象について調べる際に史料を収集する場面。そこから仮説を立て、史料に基づいて根拠を示し、検証することは、高等学校を卒業してから大学教育を受けていくうえでも必要な力となるはずである。

他方で、今回の共通テストでは、「時刻表」「JR」「ラグビー」など日常的に使われる言葉が登場した。これは歴史を学ぶことの意義が時事的社会的な関心事と直結し、庶民の日常にも内在することを意味している。第1問のように、一人の人生を縦軸に、社会の変動を横軸として辿る視点は、授業を組み立てるうえで興味深い。さらにいうと令和になったいま、平成時代に起きた出来事が歴史化しつつあるわけで、これまで公民（現代社会）の授業で扱ってきた領域が歴史の分野にも徐々に入り込んできており、そのあたりの住み分けは新学習指導要領に即して取り組まれるだろう。日本史Aにみられる共通テストの設問内容は、今後も強いメッセージ性をもって「主体的・対話的で深い学び」を追究する高等学校における授業のあらゆる面に大きな影響を与えると思う。

歴史という対象が大局的な政治や経済・外交などの分野に位置するだけでなく、もっと庶民の側に近い“普通の”空間にもあるならば、今年の共通テストで出題された社会史や生活史が次のステップに向けどのような変化をみせるのだろうか。来年の共通テスト問題に期待したい。

最後に、共通テスト出題者と作成者の方々の多大なご尽力に、心から敬意を表します。

日本史B

1 前 文

2年目の大学入学共通テスト(以下「共通テスト」という。)となる。日本史Bの受験者数は147,300人、平均点は52.81点であった。

全科目共通の問題作成方針に加えて、日本史の問題作成方針には、事象に関する深い理解に基づいて、例えば、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題、仮説を立て、資料に基づいて根拠を示したり、検証したりする問題や、歴史の展開を考察したり、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討すると示されている。

なお、評価に当たっては、14ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内 容・範 囲

第1問 日本における人名の歴史について調べた高校生二人の会話をもとに、原始・古代から現代に至る政治・外交史、社会史及び文化史について問う問題。

問1 中世及び近代の苗字(名字)の使用について述べた各文中の空欄に適する語句の組合せを選択する問題。姓と苗字の違いを記した文字資料を正確に読解する技能と、明治政府が進めた社会政策の目的に関わる考察力が求められる。

問2 中世の武士について述べた二文を読み、各人物の姓または苗字の組合せを選択する問題。平安末期及び室町前期の政治・社会史についての理解と正確な知識が求められる。

問3 江戸時代の人物について述べた三文を読み、古いものから年代順に配列する問題。各人物の事蹟に関わる理解と、その歴史的背景に関わる考察力が求められる。

問4 平安前期の人名の特色と背景について述べた四文を読み、二つの正文の組合せを選択する問題。系図読解の技能と、同時期の文化の特質についての正確な知識が求められる。

問5 昭和時代の人名について述べた二文を読み、正誤の組合せを判断する問題。表の内容を読解する技能と、同時代の政治・外交及び社会に関わる理解があわせて求められる。

問6 人名から日本の歴史を考察した四文を読み、二つの正文の組合せを選択する問題。資料読解の技能に加えて、古代から近代における各時代の社会の特質や身分制度に関わる知識が求められる。

第2問 古代における法整備の歴史と中国との関わりについてまとめた年表をもとに、古墳時代から平安中期の政治・外交史、社会・経済史及び文化史の全分野にわたって問う問題。

問1 古墳～飛鳥時代の政治・外交及び文化に関して述べた四文の中から、正文を判断する問題。各事象についての正確な理解と、遣隋使の歴史的意義に関わる思考力、判断力、表現力等が求められる。

問2 奈良～平安前期の仏教文化について述べた四文の中から、時期的な正文の組合せを選択する問題。各事象に関わる理解と東アジア世界との関わりについての考察力が求められる。

問3 古代の計帳に関して述べた四文の中から、二つの正文の組合せを選択する問題。史料読解の技能と、その社会的背景に関わる考察力が求められる。

問4 奈良～平安前期に作られた三つの法令の条文を、古いものから年代順に配列する問題。史料を正確に読解する技能と、各時代の税制や土地制度に関わる総合的・系統的な理解と思考力、判断力、表現力等があわせて求められる。

- 問5 古代の法整備について記した四文の中から、内容上の誤文を判断する問題。各時期の政治・外交に関わる理解と、資料読解の技能があわせて求められる。
- 第3問 四方を海に囲まれた自然環境が中世の日本に与えた影響について交わした高校生と先生の会話をもとに、平安末期から戦国期の政治・外交史、社会・経済史及び文化史の全分野にわたって問う問題。本問中で唯一の地図を用いた出題が見られた。
- 問1 中世の社会及び経済活動について述べた四文を読み、内容上の誤文を判断する問題。資料を読解する技能と、社会の変動を国際環境の中で考察する基本的な能力が求められる。
- 問2 平安末期～戦国期における海上交通の動向について述べた三文を読み、古いものから年代順に配列する問題。各時期の政治及び文化に関わる基本的な理解が求められる。
- 問3 馬借を描いた絵画資料に関して述べた二文を読み、正誤の組合せを判断する問題。絵画資料を読解する技能と、同時代の社会・経済に関わる理解が求められる。
- 問4 日朝貿易について述べた史料を読み、二つの正文の組合せを選択する問題。史料を正確に読解する技能と、室町時代の社会・経済に関わる基本的な理解が求められる。
- 問5 地図を用いて、中世の遺跡の位置の組合せを選択する問題。鎌倉時代の政治・外交及び室町時代の社会・経済に関わる事象を、地理的条件の中で理解・考察する能力が求められる。
- 第4問 近世の身分と社会について高校生が調べた内容をもとに、安土桃山時代から江戸後期の政治史及び社会・経済史を中心に問う問題。図版等を用いた出題は見られず、文字資料を主体とした構成となっている。
- 問1 近世の村や町について述べた四文を読み、内容上の誤文を判断する問題。江戸時代の社会の仕組みや身分制度の特質についての基本的な理解が求められる。
- 問2 歌舞伎に関わる桃山期から江戸後期の人物について述べた三文を読み、古いものから年代順に配列する問題。同時代の芸能・文化に関わる理解及び思考力、判断力、表現力等が求められる。
- 問3 江戸後期の社会の様子を記す史料を読み、二文の正誤の組合せを判断する問題。同時期の一揆についての理解と、史料読解の技能が求められる。
- 問4 江戸後期の社会の様子を記す史料を読み、四文の中から二つの正文の組合せを選択する問題。史料を正確に読解する技能に加えて、同時期の幕府の社会政策についての正確な理解と考察力が総合的に求められる。
- 問5 近世の身分と社会について考察した四文を読み、内容上の正文を判断する問題。江戸時代の社会の仕組みや人々の生活についての理解及び知識が求められる。
- 第5問 日本とハワイの歴史的な関わりを調べる高校生二人の会話をもとに、幕末期から明治後期の政治・外交史を中心に問う問題。史料を用いた出題が、全体の半分を占めている。
- 問1 幕末期の日本と欧米諸国との関わりについて述べた二文を読み、適する語句の組合せを選択する問題。幕末期の政治・社会及び文化についての基本的な理解が求められる。
- 問2 日本がハワイと結んだ条約に関して述べた二つの正文の組合せを選択する問題。史料を正確に読解する技能と、明治初期の東アジア国際秩序に関わる理解及び知識が求められる。
- 問3 明治後期の日本の外交に関して述べた三文を読み、古いものから年代順に配列する問題。立憲国家樹立期の対外関係についての総合的・系統的な理解と考察力が求められる。
- 問4 明治後期の日本からハワイへの渡航者に関わる史料を読み、二文の正誤の組合せを判断する問題。史料読解の技能に加えて、同時期の国民生活についての考察力が求められる。
- 第6問 日本における鉄道の歴史とその役割について述べた文章をもとに、明治初期～平成時代の政治・外交史及び社会・経済史について問う問題。史料・表・画像と多様な媒体を用いた出

題構成となっている。

問1 近代の産業について述べた文中の空欄に適する語句の組合せを選択する問題。明治期の貿易及び産業革命の特色についての基本的な理解及び思考力，判断力，表現力等が求められる。

問2 明治初期の暦と鉄道に関わる史料に関して述べた四文の中から，二つの正文の組合せを選択する問題。史料の正確な読解及び考察力のほか，同時期の社会生活や産業に関わる基本的な理解が求められる。

問3 近代の鉄道輸送に関わる表をもとに，四文の中から内容上の誤文を判断する問題。史料読解の技能に加えて，明治後期～昭和初期の社会政策に関わる正確な理解が求められる。

問4 鉄道に関わる事象を述べた三文を読み，古いものから年代順に配列する問題。明治末期～昭和初期の東アジア諸国との関わりにおける総合的・系統的な理解と考察力が求められる。

問5 第二次世界大戦後に撮影された写真に関して述べた二文を読み，正文の組合せを選択する問題。当時の国民生活に関わる基本的な理解と，経済的な視点からの考察力が求められる。

問6 昭和後期の交通網の発達に関わる表をもとに，四文の中から正文を判断する問題。高度成長期の社会・経済及び文化に関わる理解と，資料読解の技能があわせて求められる。

問7 国鉄の民営化について述べた二文を読み，正誤の組合せを判断する問題。昭和後期～平成時代の政治及び社会・経済に関わる理解と，国民生活の変化に関わる考察力が求められる。

3 分量・程度

(1) 分量

ページ数は，昨年度の共通テストからの変化は見られず，計31ページであった。問題数は大問6題，小問32問で，うち第5問と第6問の計11問（34点）が「日本史A」との共通問題である点も，昨年度を踏襲した構成となっている。60分の試験時間を考慮すると，大問・小問の数，問題に関わる情報量ともにおおむね適正であったと言える。

ただ，昨年度の出題においては，絵画資料に加えて，絵図や模式図といった多様な媒体が効果的に用いられたのに比して，本年度は絵図や模式図の出題が見られなかった。昨年度見られたグラフを用いた設問も姿を消し，かわって表などが登場したが，全体的に文字資料を主体に構成されたため，文字の総数は増加した印象が強い。

(2) 程度

問題の程度については，学習指導要領が求める資質・能力を逸脱してはならず，知識・理解の質や思考力・判断力・表現力等を問う問題がバランスよく配置され，総じて適正であった。昨年度に引き続き初見の資料が多数引用されたが，設問の趣旨は，歴史の考察に有効な諸資料を積極的に活用する点にあり，歴史的事象の意味や意義に関する深い理解があれば，決して難易度の高いものではない。ただ，先述のとおり文字資料の比重が増加したことから，これらの資料を検証して歴史を考察する技能が昨年度以上に求められた。そのため，同種の設問では，平素から計画的・継続的にこの点を意識した学習活動を重ねてきたか否かが，各受験者にとって読解・解答の上での大きな試金石の一つとなった可能性がある点は指摘しておきたい。

ところで，文字資料は原則として原文のまま用いられたが，理解の補助として注釈が適宜付される配慮がなされた。文字資料の特性に対する理解を深める観点から，引用の際に原文を用いる方針は，今後も継続を望みたい。

4 表現・形式

(1) 表現

全体を通して、語彙や表現に難解さを感じた箇所は見当たらなかった。前項でも触れたが、原文による文字資料には注釈が適宜付された配慮も歓迎したい。

なお、別記のとおり本年度は、昨年度に比して非文字資料を用いた設問が大きく減少した印象が強い。**14**は唯一の絵画資料を用いた設問であるが、効果的に活用されたとは言い難く、次年度以降、より広範にして有用な非文字資料を積極的に用いた良問を期待したい。地図を用いた出題も一問のみであったが(**16**)、例えば**22**のXなども地図上の位置を問う設問とすれば、歴史の展開と地理的条件の関連性をより多面的に考察させることができたと考えられる。

(2) 形式

小問における設問の形式としては、昨年度と同様、二つ以上の語句あるいは文の正誤の組合せを選択するものが多く、過半数にのぼった。歴史的事象を記した文(または条文)を年代順に配列する設問も多く、昨年度より増加して6問出題された。

ところで、二文あるいは四文を読み内容上の正誤を解答する設問では、資料の読解により得た情報で判断する選択肢と、知識・理解あるいは思考力、判断力、表現力等を発揮して判断する選択肢が同一小問中に混在するケースが散見された(**4**・**11**・**20**など)。判断の根拠や基準を両者のいずれに依るべきか、解答に際して混乱の生じた受験者も存在したと考えられ、今後は表記上の工夫と改善を望みたい。これとは対照的に**9**では、資料を正確に読解した上で考察力を発揮して判断することを求める出題意図が明瞭に把握でき、解答が容易となる印象を受けた。

5 ま と め(総括的な評価)

出題内容を総括すれば、我が国における政治・経済の動向を、その時々国際環境や人々の生活・文化の諸相との関連を視野に入れつつ、資料に基づいて考察させる視点が各設問に顕著であった。特に初見資料が多出したことは、様々な媒体が歴史的資料となり得ることに着目させるとともに、各資料の特性に気付かせ、文化財としての歴史的意義を考察する学習を例示したものであり、高等学校における授業への建設的な提言として受け止めたい。

出題範囲についても、時代・分野・領域のすべてにおいて極端に大きな偏りは感じられず、おおむね適切であったと言える。もっとも、限られた設問数の中で出題できる内容に制限や若干の偏重が生じるのはやむを得ないが、近似した時期における類似の内容を問う設問が連続する箇所が複数あったため、あえて指摘しておきたい(**19**と**20**、**26**と**27**)。

最後に、本年度の出題における大問の設定に対する若干の所見を記して、本稿を締めくくりたい。

各大問が、学習指導要領が求める高校生の学習活動に沿った場面を設定し、その活動内容をもとに構成されている点は評価できる。だが、各設問の大前提となるメモや会話文といったリード文の内容自体が、後続する小問の中で有効に活用されているとは言い難い例が少なからず見られた点については、再考をお願いしたい。特に第3問や第4問ではこの影響が顕著で、大問自体が単独の小問の集合体となってしまうことで、上記リード文を解答に際して参照すべき資料と見なすべきか否か、判断に迷った受験者もいるであろう(**12**・**17**・**21**など)。前項4(2)の後段における指摘と合わせて、今後検討いただければ幸いである。

次に、場面設定において博物館・資料館等への調査・見学や校外における聞き取り調査を取り入れるなど、活動の範囲が教室の外にまで広がれば、より多様な出題が可能であったと考えられる。一例として、昨年度の第1問においては、博物館を高校生が見学し仮説・検証及び考察を進めると

の設定の上で，各種資料を意欲的に用いた出題構成が見られた。博学連携や生涯学習，そして「総合的な探究の時間」等との教科・科目等横断的なカリキュラム・マネジメントの在り方を追究する上でも，校外施設の積極的活用は求められており，今後への提言・要望とさせていただきたい。